

地域の誇りを後世へ伝えるために

～「歴史まちづくり」市長インタビューからの知見～

1. 概要

東北地方整備局は、歴史まちづくりを通じた地域創生に取り組む意向を有する地方公共団体等の取り組みを一層促進するため、宮城大学と共同して、歴史的風致維持向上計画の認定を受けている都市の市長に直接インタビューを行い、動機や政策のポイント、具体的なプロセス等の知見を『地域の誇りを後世に伝えるために「歴史まちづくり」市長インタビュー集』として取りまとめた。

2. 市長インタビュー

○対象都市

青森県弘前市、宮城県多賀城市、秋田県大館市、山形県鶴岡市、福島県白河市
(東北地方以外の都市として、三重県亀山市、岡山県高梁市)

○宮城大学事業構想学部舟引敏明教授（現事業構想学群地域創生学類教授）、

佐々木秀之准教授（現事業構想学群地域創生学類准教授）と東北地方整備局建政部が
共同で実施（東北地方以外の都市については宮城大学が実施）。

○対象都市の市長、または民間の支援組織の方と一緒に聞き取りを実施

○主な質問事項

- ①歴史まちづくりの経過と効果、今後の展開について
- ②民間の参加、地域住民との協働を通じた歴史まちづくりについて
- ③歴史まちづくりの地域創生への効果、観光振興への寄与などについて
- ④歴史まちづくりについての期待、後進都市へのアドバイス

3. 市長インタビューからの知見

(1) 歴史まちづくりに取り組む動機

それぞれの市長が歴史まちづくりに取り組んだ背景、動機等について、大きな要因を以下の4点に整理した。

- ① 国土交通省と文化庁、農林水産省が共同して進めたプロジェクトであり、文化財行政と都市計画行政の対立という、これまでのあい路を打開する取り組みだと認識し、参加した。
- ② 地域創生を考えた場合、地域を結ぶために歴史文化や景観は重要な切り口であり、これをまちづくりの中心に据えることが重要だと考えた。
- ③ 歴史まちづくりという仕組みは、ソフトとハードのどちらも支援する仕組みなので、地域づくりに取り組む支援施策としてふさわしいと感じた。
- ④ もともと歴史文化資産が特徴の都市であり、これまでも歴史資産に様々な取り組みを進めてきたので、当然のこととして参加した。

(2) 政策モデル

インタビューの内容で共通するもののグルーピングを図り、12の政策モデルとして今後他の都市で用いることができるようポイントを整理した。

- 1 トップダウンによる強力なイニシアチブ
- 2 取り組み体制・組織の強化による政策推進
- 3 市民の意識の変化を誘導する
- 4 地域の誇りを取り戻す
- 5 東日本大震災の震災復興におけるシンボル化
- 6 様々な市民参加のプロセスを用いる
- 7 民間活動を誘導する
- 8 プロのサポート体制を構築する
- 9 まちづくりを観光に活かす
- 10 広域連携による観光振興
- 11 新しい都市整備と歴史文化保存の調和
- 12 視点を変える

モデル1 トップダウンによる強力なイニシアチブ

市町村長が先頭に立ち、方向性を示し、計画策定を進め、さらには市民との対話を進め、計画の全体を強く進捗させる。

(ポイント)

- ① 施政方針において歴まちを進めることを強く打ち出し、議会の同意を得、必要な予算を措置し、必要に応じて組織を変革し、推進体制を整える。
- ② 計画の策定に当たっては、学識経験者や住民を巻き込み、自治体の歴史文化資産を再評価し、これまで知られていなかった魅力を掘り起こす。
- ③ 新しい提案や、他の都市の良い政策を積極的に取り入れる。
- ④ 国や県との調整はトップの重要な仕事と考えて、積極的に足を運ぶ。
- ⑤ 市民とのインターフェイス役になり、説明者・説得者の役割を果たす。

○歴史的資産をまちづくりに活用
(弘前市)



弘前城と岩木山

○歴史・景観・文化を活かした
復興を目指す (多賀城市)



多賀城跡

○自学自習の精神が市民活動
の下地に (鶴岡市)



藩校致道館

○観光資源となる公園
(白河市)



南湖公園

モデル2 取り組み体制・組織の強化による政策推進

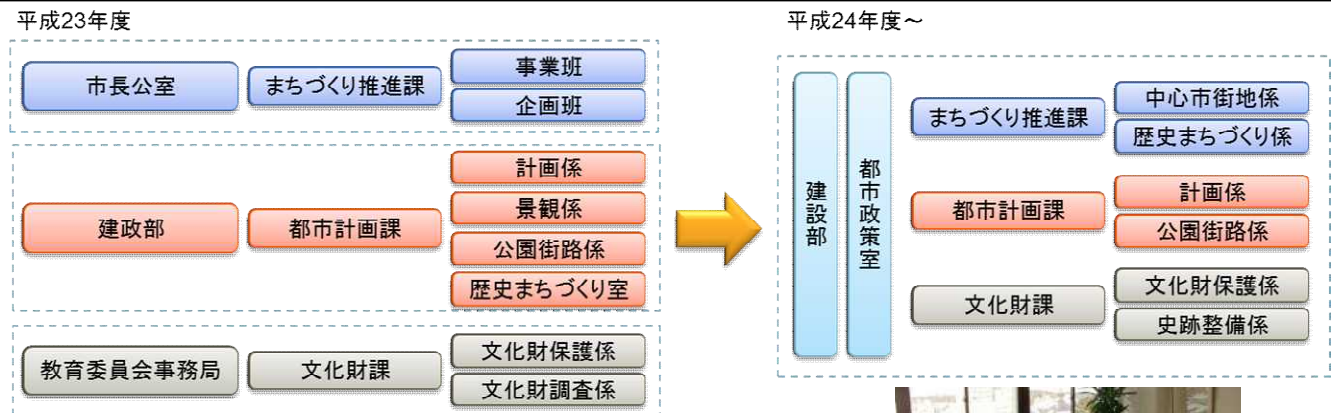
保存に重点を置きがちな文化財部局を、都市計画部局、観光部局と統合もしくは一元化することにより行政組織の活性化を図る。

(ポイント)

- ① 文化財部局を市長部局に組織的に統合する、その逆に都市計画部局を教育委員会の組織に加える。観光部局とも一元化する。
- ② 文化財の専門家と都市計画部局の専門家と人事交流をする。
- ③ 加えて両者を市長のトップダウンの指示に従わせるようにする。

これらの方策を組み合わせて、歴史まちづくりの担当の一元化を図るとともに、国における縦割り行政の弊害を現場である自治体の段階で打破する。

○白河市の歴史まちづくりを推進するための体制



白河市では、建設部内に「都市政策室」を新設し、まちづくり(歴史まちづくり・景観・中心市街地活性化)、都市計画、文化財各部門の連携による、足元の資源を活かしたまちづくりを推進するための体制を整えている。

さらに、「白河市歴史と伝統を活かしたまちづくり庁内推進本部」を組織し、円滑かつ効率的に事業を推進できるような体制を整えている。



庁内推進本部会議

モデル3 市民の意識の変化を誘導する

歴史まちづくりの取り組みを通じて、まちづくりの機運の醸成、市民の地域資源への気付きを誘導する。歴まち計画の策定への参加を用いることにより、市民意識の変化へとつなげる。

(ポイント)

- ① 歴史まちづくりの計画策定に市民を巻き込むことによって市民の機運を醸成する。
- ② 市民を地域の資源の発掘に参加させることを通じて、気づかなかった地域の資源、地域の魅力への気付きにつなげる。
- ③ 市民活動だけでなく建築士の団体についても活動への参加を通じて、地域資源の重要さへの気付き、保全活動への誘導へとつなげる。
- ④ さらには、若い世代を参加させることによって、活動の世代間の継承を進める。

○ 地域への気づきでセントラルパークを再発見（鶴岡市）



鶴岡公園

○ NPOしらかわ建築サポートセンター（白河市）



伝統的技術伝承事業研修会（現場見学）

モデル4 地域の誇りを取り戻す

歴史まちづくりによる地域資産の保存、活用を通じて地域の誇りを醸成する。前項の「気付き」に加えて、その価値が自らの地域、そして自らの誇りとつながるような活動を継続的に行う。

(ポイント)

- ① 個人の資産が重要であることを認識、もしくは再認識してもらう。
- ② 次の世代に、地域の歴史文化資産の価値を正しく伝える。
- ③ 地域への誇りにつながる祭礼を大切にし、地域で取り組む。

○ 祭りには必ず帰ってくる
(弘前市)



弘前ねぷたまつり

○ 子どもたちに先人から受け継いだ
地域の良さを教える (大館市)



大館神明社祭典の出陣式
(祭りのために1年準備する
大館びとのライフスタイル)

○ 蔵は個人の持ち物だが、
町並みは白河の財産 (白河市)



修復前



修復後

モデル5 東日本大震災の震災復興におけるシンボル化

歴史まちづくりを、震災復興まちづくりの目標の一つに掲げ、市民の共感を促す。

(ポイント)

- ① 震災で被害を受けた歴史文化資産を最優先で修復、復元を図る。
- ② 復興計画の目標の一つとして、歴史、文化の再生を掲げる。

○ 小峰城（国指定史跡）の石垣修復（白河市）



震災により崩落した石垣（本丸南面）



復旧後

○ 震災復興まちづくり（多賀城市）
（震災直前の平成23年2月に計画認定）



復興と歩む歴史まちづくり
多賀城市

モデル6 様々な市民参加のプロセスを用いる

歴史まちづくりのプロセスに市民を参加させる。市民に計画の意図を伝え、維持向上計画の計画づくり、実施に参加させる。

(ポイント)

- ① 市民に通じる言葉で話す。
- ② 市民と地域と行政が一緒に取り組みを進める。市民がプレーヤーとなる。
- ③ 民間有志の街並み保存活動を支援する。
- ④ 地域に根付く市民性を活動に活かす。

○ 子供たちがシビック・プライドを実践（大館市）



大館市立小学校の生徒が函館市内で
大館市の自慢（魅力）をPR

○ 地域に根付く市民性の活用（鶴岡市）



江戸時代から続く藩校（致道館）での
小学生を対象とした論語教室

モデル7 民間活動を誘導する

歴史まちづくりの取り組みに民間の活動を誘導する。行政の取り組みに民間を参画させる。行政の取り組みの周りで民間事業者が新たな商売を始める。

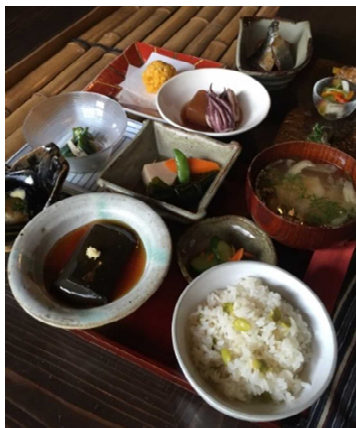
(ポイント)

- ① 危機バネが働くと市民や民間事業者が動き出す。
- ② 地域の食文化を継承する。伝統産業と連携する。
- ③ 行政の動きを先導させて、民間の動きを引き出す。
- ④ 民間事業者に主体性を持たせないと本気にならず続かない。
- ⑤ 他者の目、外の地域の視点を導入する。

○ 残された文化を残していく（鶴岡の食文化）



割烹三浦屋



農家レストランの郷土食

○ 歴まちmeeting（鶴岡の市民団体）



旧鶴岡ホテルの公園・清掃事業
<写真：歴まちmeeting提供>

モデル8 プロのサポート体制を構築する

歴史的風致の維持保存活動に、プロのサポート体制を組み込む。

(ポイント)

- ① 建築士を街並み保存の相談窓口として組織化する。
- ② 建築、不動産、金融という業種をまとめて、空地空家対策など市街地の問題を検討する組織を作る。
- ③ そのために行政から業務委託をするなど、下支えを行う。

○ 建築士事務所協会
(白河市)



合同研修会

○ NPOつるおかランド・バンク
(鶴岡市)



空きアパートを短期留学生向けシェアハウス
として活用
<写真：つるおかランド・バンク提供>

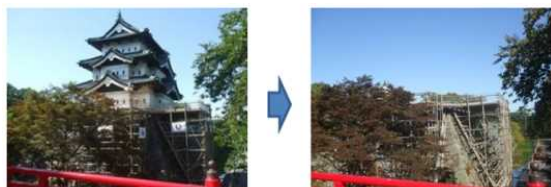
モデル9 まちづくりを観光に活かす

「まちづくり」の活動を観光振興につなげる。

(ポイント)

- ① 観光のためのまちづくりでなく、まちづくりを進める結果が観光振興につながるという考え方で活動を進める。
- ② 観光により訪れる人と市民が交流することにより、まちへの誇りが生まれるなど市民意識が向上する。

○市民参加型イベント・石曳き体験
(弘前市)



弘前城曳屋の広告効果は約25億円!

○ 歴史遺産を巡るツアー (多賀城市)

歴史まちづくりと観光への取組み

- JR東日本で企画している「駅長オススメの小さな旅」
- 歴まち事業の被災文化財保全活動の調査成果をもとに歴史遺産を巡るツアーを実施している

多賀城市のコースも紹介!

JR東日本 小さな旅
(駅長お薦めのコースとして多賀城駅周辺を紹介)

モデル10 広域連携による観光振興

広域的な観光の連携を進めることにより、観光の活性化を図る。

(ポイント)

- ① 国際的な視点を含める。国際的な交流をする。
- ② より大きなレベルで地域の資源を連携してアピールする。
- ③ 広域的な観光ルートを設定、開発する。
- ④ 市町村、都道府県の境界を越えた広域的な観光の連携を進める。

○広域的な観光周遊ルートの設定（秋田犬と「函館・大館・角館」の3D連携）



モデル1 1 新しい都市整備と歴史文化保存の調和

歴史まちづくりと新しい都市開発はセット。併せて進め都市全体の発展を目指す。

(ポイント)

- ① 守るだけでなく新しいものを取り入れて進める。
- ② 中心市街地の空洞化を防ぐために、魅力を高めるための都市整備を行う。

○古いものと新しいもので文化度を高める。図書館に民間の施設を併設 (多賀城市)



再開発ビルA棟 (図書館等)

モデル12 視点を変える

その他、先進都市からのアドバイスで有用なものをまとめると以下の通り。

(ポイント)

- ① 歴史まちづくりサミットなどのトップ間の交流を通じ都市としての自信をつける。
- ② 歴史まちづくり活動の広域化を図り活性化を進める。
- ③ 交流人口という考え方を導入する。
- ④ 小さくても成長戦略を積み重ねる。

○東北歴史まちづくりサミット（白河市）

